

478ものがたり

はじめに

竹内宏商店は初代宏が創業して以来、一貫して生地問屋として印染用の木綿を取り扱い続けており、創業から65年の月日が流れた2018年11月に二代目竹内和行より竹内亮が三代目として事業継承いたしました。時代の変遷もあり商品が小巾木綿から広巾木綿へ、そしてポリエステル時代へと移り変わってきましたが全国の染物屋さんをはじめ地域の皆様に支えられながらこれまで営みを継続することが出来てきました。しかしながらけっして事業を継続するのが容易ではないこの時代に、多くの経営課題を抱えているのも事実でした。

そんな竹内宏商店が取り扱う商品の中には、400年前から知多地域で織られ続け伝わってきた「知多木綿」と呼ばれる木綿があります。知多木綿は江戸時代に隆盛を誇りその後、明治大正昭和とこの地域の発展に貢献し続けてきました。ただ「知多木綿」を知って使っている人は残念ながら非常に少ないという現実がありました。その要因の一つとして知多木綿は商品ではなく製品として作られ続けているという現状があったからです。

私どもはこの知多木綿という歴史ある地域の伝統に改めて着目しました。その中で、今一度竹内宏商店とはどんな会社であるべきなのか、またこの先、社会に必要とされる会社になるためには、企業としてどんなお役立ちが出来るのかを見つめ直す中から生まれた新たな挑戦の一つが知多木綿アンテナショップ「478」のオープンでした。

478にかけた思い

「木綿をもっと身近に感じてほしい。そして見て触って使ってもらいたい。」

そんな思いを込めたお店です。478の名前の由来は実は郵便番号からです。知多木綿という地域の特産品を扱うにあたり店名にも地域性を表現したく店名に採用いたしました。

製品として作られ続けてきた知多木綿を商品として展開できれば、もっと知ってもらえることが出来る。そして使い手の皆様に木綿の魅力を直接伝えることが出来るのも大きな価値だと感じました。店内に置かれる商品で共通していえることはただ一つ。それは素材が力織機で織られた知多木綿であることだけです。商品の中には弊社の生地を使い全国各地で販売されているブランドもあり、染職人たちが染め上げた彩り豊かな商品が多数あります。また棉（ワタ）が持つ可能性を最大限に引き出し、伝えることを使命としたオリジナルブランド「WATAKUMI」も同時に誕生いたしました。その他には木綿素材そのものを反もしくはMカットで購入することも出来ます。多種多彩な知多木綿を見て触ってそして使ってもらえる日本初の力織機で織られた知多木綿専門のアンテナショップです。きっと皆さまの心に残るお気に入りの知多木綿が見つかると思います。

478の未来像（持続可能な世の中を目指して）

「木綿をもっと身近に感じてほしい。そして見て触って使ってもらいたい。」この想いと同じくして知多木綿の未来に向けた取り組みにも力をいれていきます。初めにお店の売り上げの一部を綿花栽培に関わる支援のための基金に寄付し、綿花産業の発展に寄与していきたいと考えます。次に知多木綿商品のさらなる可能性を広げていくために、若手デザイナーとコラボして知多木綿商品の開発及び店舗販売での支援ができる仕組みづくりをしていきます。これらの取り組みを通じて知多木綿の未来に向け持続発展できる地域からも愛される店舗を目指してまいります。

最後に、

これらの取り組みを通じて知多木綿の魅力を発信し、

まちの賑わいをつくっていききたい。

地域に愛されるお店に。

そして世界の木綿ファンから愛される生地問屋になるために。

有限会社竹内宏商店

代表取締役 竹内亮